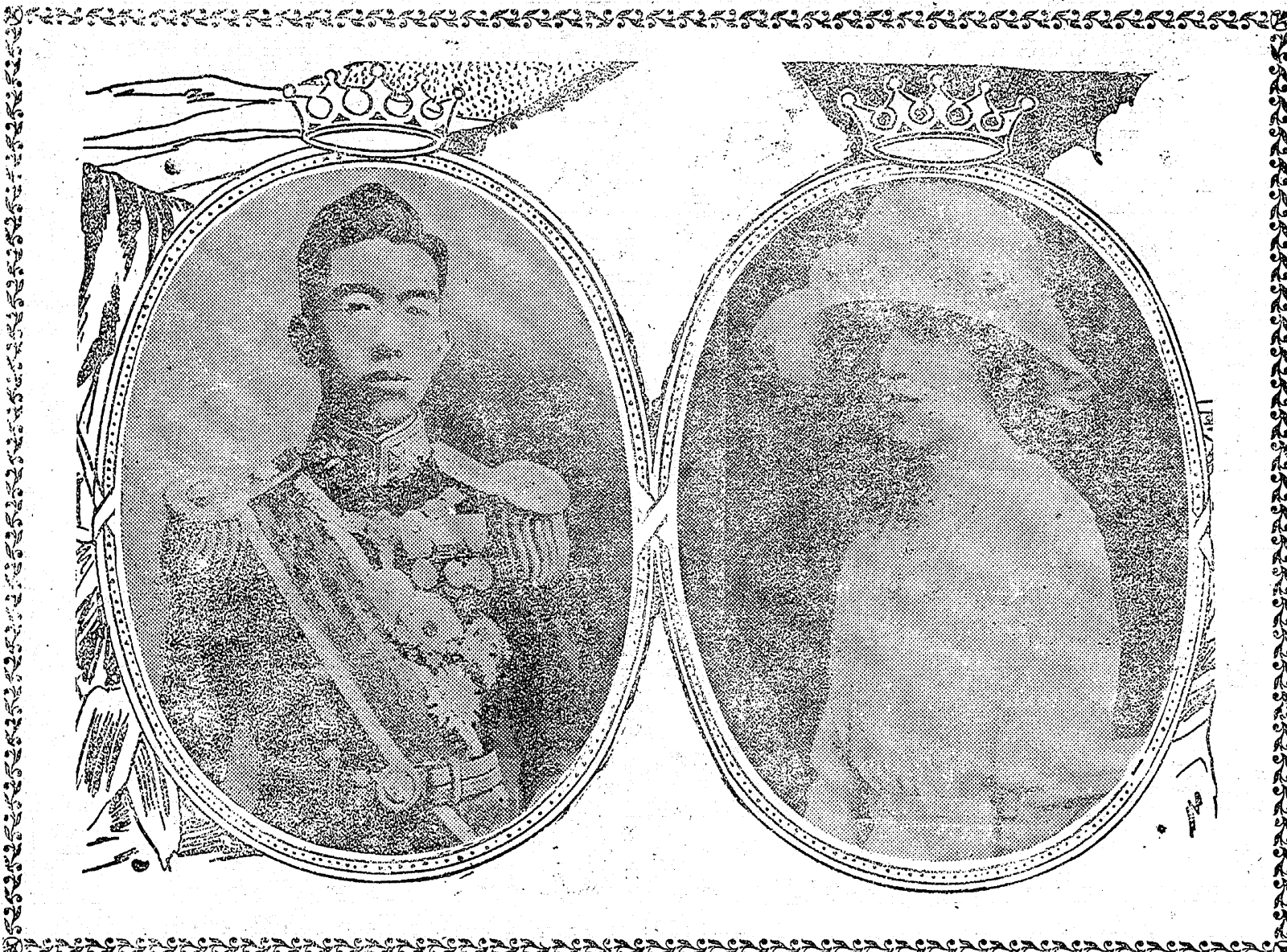


磐城時報

電話三三〇番

編輯部 印刷部 發行部 廣告部 電話部
編輯部 印刷部 發行部 廣告部 電話部
編輯部 印刷部 發行部 廣告部 電話部



中島

孟

平町(電話二二五番)

電話四四九番

松田卯次朗

電話一六一番

昭和三年を迎ふ

朝暾熾々として茲に昭和三年の春は来た。寔に是れ一
年の隔たりは新舊萬象の感を異にするものである。新
年に迎へたる昭和三年は諒闊あけ後に於ける第一次の
新春にして特に此の感の深きを覺ゆる。吾人は先づ以
て此の劈頭恭しく寶祚の無疆聖壽の萬歳を祈り奉り次
で讀者諸君の前途を祝福する。

吾は春光新たなる昭和三年の劈頭に立ちて、漫ろに又
經過し去りたる一年の歷程を顧想することを禁じ得な
いものが無ければならぬ。諒闊に明け諒闊に暮れたる
昨一年間は實に言ふべからざる痛切なる感を吾人に與
へしめたのであつた。

春來依然たも不振不況の空氣は社會のあらゆる方面
を包みて恰かも陰雲の密閉するが如く、外國貿易は入超
又入超を報せられ、爲めに海外爲替の下落は甚だしく、憂
色各方面に滿つ、而して一方國內の景氣は毫も引立たず
生産は常に過剩に困しみ、堆積は頑として動かす、供給豊
富にして需要薄弱を告げ物價は低落に次ぐに低落を以
てして一般社會の不況はドン底に沈淪した。

加ふるに昨春以來、銀行界の休業は益々患憂を深めて
其の局モラトリアムの出現するに至り、極度のパンツク
は猛然として襲ひ來り、不安は更に更に層一層の深刻を
加へるのであつた。斯くして是れに原因する金融の不
圓滑は遂に以て動なからざる破綻者を各方面に出すの
已むなきに至つた。吾人は思ふて茲に到れば、又敢て此
の他を數ふるの勇氣はない。

然かも今や新年と共に是等の思はしき凡ての事象は
全く過去の歴史に屬して吾人に對する貴い好個の教訓
資料を示す事となつたのである。吾人は此の貴き好個
の教訓を近き過去に擁して此の新たなる昭和三年の舞
臺に立つに於ては、須らく心機を一新し、大々の決心の下
に活躍を期さなければならぬ。

古來總ての事物の上には於ける三の數は吉凶祥禍とも
に深き意義の存するに同時、又頗る警戒を怠つてはな
らぬのである。而して本年は實に昭和三年である。吾人
はこの意味に於て奮つて努力勵精して、眞に意義ある活
躍に向つて邁進せんことを期するのである。茲に新年
の劈頭に臨み聊か此の一言を題す。

昭和三年一月元旦

磐城時報社同人



温古道 人

龍尾壇を蔽ふ▲ 人皇六十代醍醐天皇の御宇延をまつて之を封じた、ところが長八年の七月十五日の事である怪しむべし、其時皇帝の笛持ち大なる流星があつたが、其の給ふ手は俄かに自由を失ひ、吹引き行く流星の跡は化して雲と呼吸も失はれて笛吹きたまふ變じた、越へて同月の二十日に事全く不能となつたので宮中大至り黒き雲が龍尾壇を蔽ふたといひ騒ぎ歎き悲んだ、之を傳へ見る間に、忽ち一陣の風吹き來りて術者は直ちに巖の符を一つ五六丈ばかりの大蛇空より破り解いたので帝は又元の如く落ちかゝり是れが爲めに高欄に成せられた。（十訓抄）



支那後漢時代、葉公常に龍を持ちたるが、同國三室の池に棲好み、繪畫に彫刻に、有らゆる物に龍形龍姿を附して喜び嗜みつ、あつたが、是れは眞の龍にあらずして詩きたる偽龍でリユウに似たものを愛するのであるから、天めるリユウ王夜なく此の女子龍一日降つて葉公の居所の窓の許に通ひ來れる内に一夜其女窺ひて、其龍頭を現はしたので子ヲ引、連れて去るを女子の父之を見たる葉公はアナヤと一聲は驚き怪しみ、何處にか伴ひ行叫び、其魂を失ひて其場に打ちくたせと潜に見定め置き、後日倒れたのであつた。（後漢書裏に至りリユウの行ける處に赴き見れば、其女子は楡皮尾の家に在ると見へたが現の如くにて實に笛を吹きたまひたるが、其聲七月河尻に行くと語つたこと宛然龍の鳴くに異ならず、術者はこれを聞いて眞に龍の鳴くぞと

謹賀新年

湯本温泉旅館

大 山 常 備 勇
電話三二番
電話四番
電話五番
電話六番
電話九番
電話四四番

マキノ映畫有聲座

富岡春朝 月岡一誠 町田秀州 丸山東錦 大原山石 明石山石 森山一榮 外館員 漆間善助 事務員 北郷竹次 主計 小梅島三 正松

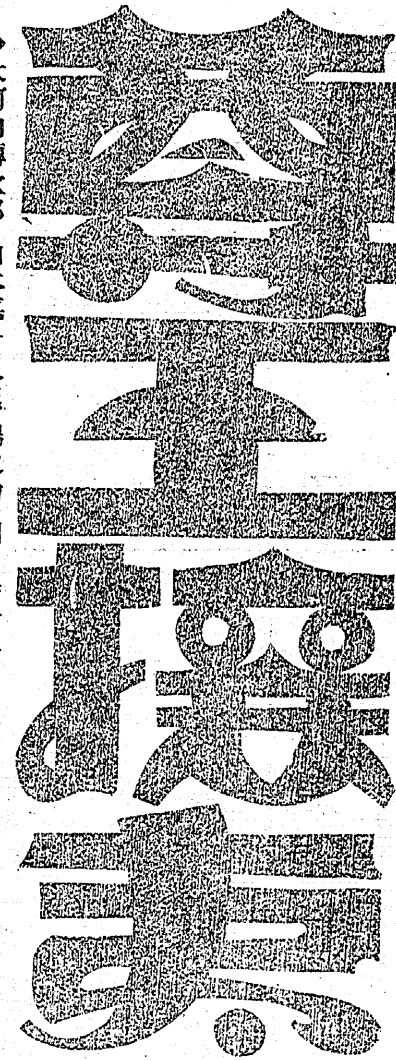
清野キヨ

長谷川平八

吉田蒲鉾店

謹賀新年

大建國史



大河内傳次郎・山本嘉三郎・松平鶴之助・岡田時彦・酒井米子・澤村春子・櫻木梅子主演
元日・二日・三日・四日 日間 晝夜二回公開 入場料 一等大人四〇〇 二等大人三〇〇 小人二〇〇

日活會社代表的超特作大映畫 ◆ 日活新舊全員大合同總出演 ◆ 原作脚色 池田富保 撮影 松村清太郎 監 督 呼び醒し 茲に捲き起す國民至誠の叫び開港 受け赤忠の權化水戸烈公多量の勤王の志を 辛ひて憤然と起り嗚呼時將に國家の危機を 擾紛糾裡に明治建國の基礎は固らるる

平 館 映 上 部 全

謹賀新年

平町洋服工商組合

紺屋町 土井洋服店
研町 丸善洋服店
研町 影山洋服店
研町 高崎洋服店
古銀治町 中島洋服店
材木町 京屋洋服店
一丁目 小松洋服店
一丁目 仙臺屋洋服店
三丁目 佐川洋服店
研町 關洋服店
南町 鈴木洋服店
材木町 高野洋服店

磐城共濟病院

内科 小兒科 院長 醫學博士 難波 桂太郎
外科 皮膚泌尿科 部長 渡部 桂太郎
外科 婦人科 部長 木村 淳
産婦人科 部長 野村 秋善
藥劑科 部長 野村 秋善
病院長 野村 秋善

磐城炭礦株式會社礦業部

電話 礦業部 電話 運輸課 電話 平發電所

石城郡川部村 主木請負業 中山吉之助

工榮商會

佐々木健一郎

女王醬油

福島縣平町 電話七四一番

平町二丁目 關内油店

「五面より」
▼猿澤池のリユウ

昔時奈良に藏人得業惠印といふ僧があつた、其鼻赤色を帯びて居つたので大鼻の藏人得業と呼び、後には其呼名の長として鼻藏人と云ひ、又後には猶長として只鼻とのみ呼ばれた、此の鼻藏人嘗て猿澤池の端に某月某日此の池のリユウ天に昇らんと記した札を建てた、之れを見たる往來の人々は驚きさうめき合ふを、藏人は、我れ假初めに仕たる事を人々の騒ぐをかしき八時より舉行する。



事に思ひ、此事何處までも眞實として仕遂げんと知らず顔して日を過ごす中に、其日となつたので、傳へ聞きたる大和、河内和泉、攝津の國々の人々は猿澤池の池に集ひ寄つた、藏人も流石に驚きて我が戯れ事も斯くなりては唯事にてあらずと思ひ、何事か起り出づるならん、兎も角行きて見んと、頭を包み隠し素知らぬ振して赴きたるも、とても甚だしき群衆雑踏にて近づき得られぬので、興福寺の南大門の壇の上に登りて、今や能が昇るかど待ちかけた、けれども素

より出鱈目の立札であるので詐は扱つたき何物も池より昇り出でるものもなかつた、其のうち、其日も暮れ果て暗くなつたから藏人は何時までも斯る所に居ることの馬鹿々々として家路に歸る途すがら、一ツ橋の邊にて盲人に行き逢ひ、危なしと盲人に注意したるに、盲人は取敢ず鼻藏であらうと言つた。(宇治拾遺物語)

▲平消防出初式 平消防組に於ける出初式は四日午前八時より舉行する。

謹賀新年

平銃砲火薬店
電話四四一番

食道樂大 貞
平田町(電話四一三番)

山野邊大五郎
平紺屋町

卜印魚問屋
警城平四(電話五二八番)

謹賀新年

酒銘 由良之助
平町久保町
永山和平

雜貨物商 大 一 屋
平町二丁目(電話一三三番)

猪狩 一
四丁目

千葉 彦治
田町(電話三六五番)

永野 柳造
極地小路(電話五三七番)

仲里 文平
極地小路(電話二七一番)

漆畑 元吉
田町(電話三六一番)

大嶺 庫
舊城跡(電話五六三番)

小野澤 彌三郎
鍛冶町

山野邊 義政
極地小路(電話六二五番)

眞木 桓
南町(電話六五七番)

安藤 琢磨
極地小路(電話六二四番)

安齋 勝美
田町(電話四二〇番)

新田 善次郎
極地小路(電話十五番)

酒井 喜代正
極地小路(電話七三三番)

門傳 清吾
極地小路(電話二四番)

平紺屋町(電話五三〇番)
柳下製材所

綿類製造販賣(安積屋號)
高木信太郎
平町紺屋町(電話四四二)

平町極地小路
吉田家具店
電話三五二番

東京鐵道郵便局指定
山本屋旅館
平町二丁目(電話二八)

大黒屋商店
平町二丁目(電話一六)

時計洋品商
大谷時計店
平町三丁目(電話一九番)

藥品 染料
渡邊龍功堂藥局
平町三丁目(電話一〇八)

古衣商 旭屋質店
仕立商 旭屋質店
平町三丁目(電話四二五)

平町紺屋町(電話一六五番)
扇屋旅館

平町紺屋町
吉田寅之輔

平町一丁目(電話一八番)
坂本紙店

蒲鉾製造・仕出し・經節
藤 市
遠藤市松
平町二丁目(電話三〇五)

平町大工町(電話四百十番)
栗野屋
石澤茂

石城郡第一區校長會

石城郡第三區校長會

石城郡第二區教育事務協議會

湯本信用無盡株式會社
專務取締役 比佐賢司

東部電力株式會社平營業所

小名濱水産株式會社
專務取締役 水野政次郎
支配人 平野直康

山崎合名會社
平町 電話一〇番・二七番

小田炭礦株式會社
社長 萩原申八

小名濱町
水野政次郎

四倉銀行會社組合

四倉電氣株式會社
四倉銀行四倉出張所
磐城五工業株式會社
萬年合同運送株式會社
四倉セメント四倉工業所

電話一〇七番
電話六一五番
植田政一
倉庫前

「四面より」
辭し秋原申八氏に譲つたと言へ現在隅田川炭礦、津川炭礦、好間元山炭礦三炭礦の礦主として常磐地方炭界に雄飛してゐる小田吉治氏が、
を投じて古河炭礦から買改した元山炭礦は小田氏の手腕によつて見事に復活したわけで、即ち小田氏の非凡を語るものである。かくの如き一代の成功家小田



社告
恒例に依り本紙は來る一月五日迄休刊仕り候愛讀者各位諒せられよ
一月一日
磐城時報社
愛讀者各位
吉治氏は、然し現在の成功のみに甘んじてはゐない、過般古河炭礦から元山炭礦を譲りうけた後の事であるが、小田氏は自ら語る「俺は十炭礦を持たぬうち

責任觀念
義侠的精神
を如實に物語るものであるからこゝに略記しやう。
小田炭礦は創業以來小田氏の卓越した手腕により四割内外の配當をさへ行つて好成績であつたが、昨今財界不況に祟られて他會社同様欠損の不況に陥り、無配當が數期續くに至つた。小田氏は是点に強い責任を感じ、如何にして小田炭礦を甦生せしむるかについて熱慮に熟慮を重ねた結果社長を辭し重役の椅子さへも退いて一介の株主となり陳謝的態度をとつた上、背後から會社を援ける決心をなし、會社が、平、磐城兩銀行から一割二分五厘の利息で借金してゐる負債に對し個人として十六萬圓を低利で提供して會社の負擔を輕からしめ一方出炭を増加せしむるため新斜坑を開鑿せし十一月に優良な炭層に着炭した等、小田氏の誠意を示す一例である

十炭礦主
現在の成功に甘んじ勝つたのを凌ぐその意氣こそ、實に氏の生命であると共に、地方のため、國家のため喜ぶべき意氣であらねばならぬ。氏齡未だ五十に達せず、前途益々遠達するを思ひ、將來の活躍を望む。



小田氏個人經營の津川炭礦及び隅田川炭礦は何れも相當の好成績を納めてゐるが、過般數萬圓

謹賀新年
四倉本町東通り
一助波千之助
山崎正策

平町會議員一同	平町材木商業組合	平砂糖商同業組合	磐城興業株式會社 四倉町驛前(電話五九番)	吉田油槽所四倉支店 平町二丁目	三井履物店 電話一五六番	勇屋はき物店 電話三三七番	二葉印刷所 平町仲町(電話七三四番)	三國屋印刷所 平町南町(電話五三三番)	多田井質店 平町大工町	平町料理屋組合		
縣會議員 若松美三	平町公立校長懇話會 七十七銀行平支店	支配人 小原長英	植田町 磐城無盡商會 會長 小宅嘉久治	湯本消防組頭 井坂千代松	石城郡第四區校長協議會	加藤丈夫營業所 貸家地所代理店部(平町白銀町電話三三番)	昭和園 早月盆栽土苔販賣部(平町字大町) 早月盆栽栽培部(平町字鷹匠町) 草花切花盆栽栽培部(平町舊城跡本丸)	平乘馬會 (平町字大町)	四倉電氣株式會社 社長 新妻盛	磐城建物株式會社 支配人 井上貞治郎	農工銀行平支店 河西八十治	古河鑛業株式會社好間鑛業所

或るひとに與ふ

◆浮世の事どもも
福島新聞 渡邊 文

生産に偽りある勿れ、商業は眞に労働争議は起るまい、人道間
面に營め、分配に我利を、題も飛び出さない筈である、更
しめ、消費に奢侈は罪なるを知らず、消費に奢侈は罪なるを
れ、公債は子孫の負擔を慮れ、いつたところで消費と奢侈とを
租税は公正を保て、國家の事業同一視してゐる経済人が可成り
に對して苟も私利あるな……とに多いのだ、公債を子孫のため
正統派の學者は經濟は道徳の上に買ふものがあつたらぬ目に
に築かれてゐるとよく云ふ、更からう、こうなる事實現經濟が
にこれを演釋



は國民最高の道徳だなど云つてゐるもつともどの條項を見ても國と民との間に於ける經濟的名譽が斯くの如く不斷の道徳によつて守られてゐるものであれば國民經濟は確に國民最高の道徳であるかも知れないが、事決して道徳の上に築かれてゐる實は甚だ怪しいものだと思ふ。ものでないといふことを明かに手近な例を平町にとつて見る、吾々に示してくる、可笑な商業の眞面目などは昔から商人の泥棒の名稱によつても窺はれる正札がつかつてゐるのにこれをまける、而も商人がそれをまけるところを見ると思ひ半ばに過最近正月になると、松飾りしめざる。租税の公正に至つては論飾りを中心とする、然し外である。御自分の公課負擔を、非難攻撃の矢を向ける、然し少くすまたに町會議員となる虚禮、虚飾に涉らぬ限り一年一去るにも及ばない事である。そのものもあり、滞納を平氣で度する事だ、さう固苦しい議論を、また分配の我利をたてずともよからうと思ふ。緑たぬ年末年始の宴會を節約した傾むことが出来れば何も諸炭酸濃い松や、すつきりした竹の姿ら好いではないか。

残しておき度い日本正月情緒

とは俗世界に働らく吾々に一抹の清新な氣を與へてくれる、そして又それを見れば來復の若々しい氣分になれるではないか。門松のない正月、それは考へたけでも淋しい。吹く春風に頭をしめ飾りなすらせて往き復りをする妙趣は、僅かの金錢を惜しんで捨て、いゝ情景ではない。越後國など浄土眞宗の盛んな地方では宗教上の信念からかうした風習を味はさないでゐるが、之はしめ飾りを神統の神事としてゐる事から來たもので、この点は容易に斷定をさせない事である。傳説から言へば、天の岩戸に初つてゐるもので、この点から考へても天照大神は神統ばかりのものでなく國民全体から考へて見ればべきものだと思ふ。私の研究から言ふと、起源はむしろ佛敎の方にあると思ふ。密敎の戒壇の四方に柱をたて、繩を張るといふ事があるが、之などはしめ飾りと言はぬが、しめ繩と同じく左からなふのであり支那の道敎などにもかうした形式があり、御幣の如きも佛敎にあり、田樂幣から來たものと思ふ。之等の考證はさて置き、風羽根羽子板と考へて來たならばどうしても門松を聯想せざるにはならぬ、殊に兒童の生活を考慮の中にに入れて見れば夢の國を追ふ彼れ等の憧憬を打ちこぼすといふ事を兒童教育から見ても充分に考へべき事だと思ふ、節約といふ事も、が、僅かな費用で出来る淳風美俗を無理に捨て去るにも及ばない事である。そのものもあり、滞納を平氣で度するものもある、また分配の我利をたてずともよからうと思ふ。緑たぬ年末年始の宴會を節約した傾むことが出来れば何も諸炭酸濃い松や、すつきりした竹の姿ら好いではないか。

平町一丁目
家具部
インテアン自動車東北販賣所
スバル自動車發賣元
濟命ビル
フランチ式調髪所
平町白銀町

謹賀新年

平町一丁目 山家メリヤス店 電話六〇五番	平町三丁目 三井呉服店 電話三八番・七五番	石城郡平町驛前通り 丸山喜一郎 土木請負業	平町紺屋町(電話一三八番) 炭屋旅館 關内喜久次郎	平町紺屋町(電話一五九番) 住吉屋本店 青天目源一郎	平町停車場前(電話一四九番) 住吉屋支店 酒井清	平町紺屋町 開進堂菓子店	平町四丁目(電話一四〇番) 鶴屋洋品店	平町田町(電話一四一番) 御そばやぶ	平町材木町(電話七四〇番) 山城屋商店 江尻松吉	
湯本町 鯨岡 潔 四倉町字本町(電話七番)	水野屋本店 草野村消防組頭	大平源八 御筒倉庫消防用具販賣修理 東北營業所	木村商會 菊地高田 四倉町本町東通	小松學俊 四倉町如來寺	セメント瓦製造販賣 長谷川好太郎 四倉町本町東通	醬油製造販賣 根本權四郎 石城郡大浦村細谷	金剛瓦製造所 山野邊政太郎 四倉町本町東通	平松ヶ岡公園 池の端 電話二二六番	四倉藝妓家 柏井家 磐本家 橋の家 澤田家 武田家 忠臣家	
明治計算部 中央計算部 日本計算株式會社加盟店 羽石運送店 平町(電話六六三番)	平町紺屋町 圓谷健三郎 中村屋號	平町三丁目 中野呉服店 電話六七番	平町月見町 佐藤鐵工場 電話三六二番	平町田町 御料理 寶來亭 電話三二五番	平町四丁目(電話四四番) 小野藥舖	平町一丁目(電話六二二番) 仙臺屋洋服店	弓羽子板類 金太郎玩具店 平町三丁目	平町橋樑小路(電話五三三) 瀨尾藥局	平町橋樑小路(電話三一九) 高橋活版所	平町橋樑小路(電話三一九) 平町橋樑小路(電話三一九) メントストリート 平町橋樑小路(電話三一九) 鈴木盛之助

平町一丁目
家具部
インテアン自動車東北販賣所
スバル自動車發賣元
濟命ビル
フランチ式調髪所
平町白銀町

平町田町

電話四五番

電話二二三番

平町田町 電話五四番

電話五三番

平町二丁目

平町三丁目

正月松の内には 響應に注意せよ

うっかり口がすべると選挙違反
警察署員談

第五十四議會が解散か否か未だぬ事は次の條項である。平野高
斷定出來ぬが、無事に終了する等係は語つてゐる。
にしても來春は總選挙を行はな、響應、接待、選挙や接待を
ければならぬので現在議員で
るなしに拘はらず立候補の意志
あるものは既に選挙の準備にと
りかゝつてゐるものあり其筋で
は正月の廻禮にかこつけ或は松
の中の會合を利用して投票を得
る目的を以て選挙運動をなすも
のあるを見越し之等の行動を嚴
重に取締と事となつたが、各人
が正月中に特に注意せねばなら

謹賀新年

石城郡泉驛前
水野 徳次郎

石城郡平町三丁目
久野 さく

有煙・無煙各種石炭特約店
高橋 龜松

平町西洋料理業組合

平町五丁目
馬目啓太郎
電話五四七番

石城産科婦看護婦學校長
鷹崎千代
平町一丁目

植田藝妓屋
舞鶴 若緑
鶴の枝 春の家
新油家 三益
鶴泉 小柳

小名濱町
御料理 角海老
電話十一番

九紫	八白	七赤	六白	五黄	四綠	三碧	二黑	一白
辰戌年の人	申亥年の人	酉卯年の人	丑未年の人	寅巳年の人	子午年の人	辰戌年の人	申亥年の人	酉卯年の人
凶	吉	凶	吉	凶	吉	凶	吉	凶
日七	日六	日七	日六	日七	日六	日七	日六	日七
日十	日九	日十	日九	日十	日九	日十	日九	日十
日十三	日十二	日十三	日十二	日十三	日十二	日十三	日十二	日十三
日十六	日十五	日十六	日十五	日十六	日十五	日十六	日十五	日十六
日十九	日十八	日十九	日十八	日十九	日十八	日十九	日十八	日十九
日廿二	日廿一	日廿二	日廿一	日廿二	日廿一	日廿二	日廿一	日廿二
日廿五	日廿四	日廿五	日廿四	日廿五	日廿四	日廿五	日廿四	日廿五
日廿八	日廿七	日廿八	日廿七	日廿八	日廿七	日廿八	日廿七	日廿八
日卅一	日卅	日卅一	日卅	日卅一	日卅	日卅一	日卅	日卅一

謹賀新年
福島縣平町電話一三九番
釜屋商店
諸橋久太郎
諸橋元三郎

平町田町
御料理 初音
電話二二六番
御料理 玉よし
平町南町(電話四二六)
平町魚市場

磐城青年同盟會
會長 山崎正策
副會長 木村守江
支(四倉町)門馬倉次郎 大野村 西山正清
大浦村 高崎義雄 神谷村 木村幸雄
長(草野村)渡邊貞三 平窪村 鈴木勇

平製氷株式會社
専務取締役 加納五郎

植田水力電気株式會社
社長 金成通

喪中につき年賀の禮を欠く
小川村 草野欽一郎
植田町馬 上守一

喪中につき年賀の禮を欠く
白郡 司二郎
白井 三郎

喪中につき年賀の禮を欠く
御遠慮申上候
白井 博之
白井 一郎

石城郡小名濱町
磐城海岸軌道株式會社
支配人 丹野寛平

磐城水産工業株式會社
社長 小野晋平
支配人 福尾伊太郎

恭賀新年

縣會議員 古川傳一	山崎與三郎	縣會議員 鈴木辰三郎	縣會議員 山崎吉平	縣會議員 高岡唯一郎	金成通
中野甲藏	津川炭礦 隅田川炭礦 好間元山炭礦 礦主 小田吉治	縣會議員 野崎滿藏	木村清治 新田目善次郎	植田物産株式會社 山崎登	小野晋平
小濱長太郎 小名濱消防組頭	平町長 伏見彦衛 助役 佐藤要四郎	縣會議員 太田三郎	飯野村長 伊藤淺之助	江名町 中田政吉	江名町 中田政吉
安島重三郎	縣會議員 安島重三郎	平窪村 松本德一	縣會議員 鷺清昇	縣會議員 鷺清昇	縣會議員 鷺清昇

平町二丁目
 磐城セメント四倉工業所
 鐵山用諸機械製作
 平町二丁目
 活動平
 平町二丁目

